

おひらき図書館

No. 70

発行 青木和子
代表 青木和子
〒160-8301 東京都杉並区
TEL 367-5384

● 松戸市へ二度目の
● 公文書開示・
● 情報公開を
● 請求しました

21, 3月に 会員の菊地さんが図書館建設に関する情報の開示請求をしたところ、平成12年3月松戸市立図書館作成の「市立中央図書館建設基本構想」およびそれに関する「会議概要」が開示されました。平成12年度中に図書館長と面談したのですが、この構想の存在を聞いた事はなかったため、これを知って大変驚きました。

この基本構想のコピーはすでに会員の皆様には、お送りしたので

読まれた事と思えます。月例会でも取り上げましたが、出席者の意見は「かなり良くできています」というものでした。

「市立中央図書館建設基本構想」

◎ はじめに...

■ 本市の図書館の現状

図書館行政サービスは施設整備面で立ち遅れている。

■ 近年の図書館の傾向は...

従来の立ち寄り施設から、そこに訪れる事を目的に市民が集まって来る目的施設へと飛躍している。

■ 中央図書館を含む図書館整備計画は...

核になる中央図書館の建設を中心に、総合計画で示す3つのまとまりの地域に中央館および地域図書館の建設を図る。

生涯学習活動の中心施設として、きめ細かな社会教育の充実に努める。

図書館需要の増大への対応が急務とされる今日、中央図書館建設と平行して市民のための真の満足が得られる図書館サービス網の完成を目指し、早期に、具体化する必要がある。

◎ 基本構想は、下記の七項目で構成する

1. 基本的理念
2. 機能
3. 蔵書計画
4. 位置
5. 敷地・建物規模
6. 職員配置
7. 地域図書館の概要

このうち、5、の項を特記。

「中央図書館は、全市民が利用し易い交通の要衝に、駅に近く、目につく場所を、市民が訪れ易く広い面積を確保する事が望ましい。

松戸市総合計画第一次実施計画で想定している相模台国有地はこの条件を満たしていると思われる。

所在地 松戸市相模台 大蔵

省関税中央分析所

面積 七九二九・五六㎡

用途地域住居地域

第一種高度

・建蔽率 60%

・容積率 200%

「建物配置想定

ア、地下一階地上二階建の案

(全面使用)

イ、地下一階地上三階建の案

(用地半面使用)

ア、イ、それぞれにおける施設

配置までも明記されています。ここまで明確に作られた構想が

目の目を見る事なく、同年七月には市の経営者会議において相模台の土地取得断念を決定してしまつたのです。せめてこの理念を生かして、新たに決定されるであろう用地に、すばらしい図書館が建設される事を望みます。

文責 青木和子



開示請求を行なった

菊地さんから

生涯学習本部からの説明

◎この基本構想は図書館作成の書類で、教育委員会作成ではない「報告書」である。

◎現段階では、図書館用地としての大蔵省跡地は断念する。

◎今後は...

・土地... 条件に合った土地を捜すか、妥協していくか。

・構想

1. 初めに土地ありきではなく、ある程度構想を研ぎて土地取得をすべきと考えている。

2. 平成14年度には杭打ちをしたかったが無理なので、市民会議のような場(建設準備委員会)を立ち上げる年とし、市民に図書館建設が始まる事を伝えたい。

3. 平成13年度は構想を作る下準備の年。現在の利用者だけでなく広く意識調査をしたい。現利用者教イコール市の人口ではないし、審議会等への参加団体等が利用者や市民の声を代表しているとは限らない。どのようにマスの的に捉えていくかが問題。

4. 予算がどのくらいつくかは未定。◎地域館構想を検討していきたい。

報告 菊地志枝

「市立中央図書館建設基本構想」会議概要

1. 開催日 平成12年1月21日(金)
2. 参加者 (図書館) 増田館長・長谷川専門監・斉藤主幹
(社会教育課) 内田課長・佐藤補佐
(公民館) 関口補佐
(企画調整室) 市毛専門監・川上・永田

3. 要 点

- (1) 本市の図書館は何を目的としているのかが見えて来ない。このような理想的な図書館を作りたいという気持ちは伝わるが、描かれているのは手段だけ。目的は何か、から考える必要がある。
- (2) 目的と現状、目指すものと現状のギャップの中で、図書館はこういう役割を果たすのだ、という体系づくりが必要。
- (3) 行政施策には意図があるはず。生涯学習の最上位目的は自立した市民。行政は学習面での市民の自立を支援する。
- (4) 生涯学習の中で図書館の位置づけも意識する必要があるし、生涯学習の基礎づくりとしての視点が必要。自分で問題を見つけ解決する力が大切で、学校教育もそれを目指している。学校の資料不足では公立図書館との連携があるし、課題の実現に向けて主体的に解決できる力を持った大人になるよう、子どもも育っていかなければならない。また、そういう大人に対応できる図書館であって欲しい。
- (5) 松戸市は県下4番目。これをどう評価していくか。また、図書館ができると松戸市民はこうなるというグランドデザインと、それをどこまで追いかけるか。松戸らしさは何か。何を重点的に行うのか。市民ニーズと認知されるようなものを描く。
- (6) 図書館が有する資料・人材等で、どのように支援するのか。どういう対象者にサービスするのか。生涯学習の中で、図書館行政ではどういう市民像を目指すのか。例えば、公民館では市民が自分で学びたいものを選択して学べるように支援するが、市場として成り立つ領域は手を出さない、という方向性にある。
- (7) 資源は有限であるのに、サービスを無限にするというのは矛盾。民間に任せる部分は任せる。有限の中で何を選択するか、濃淡をつける。
- (8) 行政が全てをカバーすることはできない。市民が納得できるポリシーがあればいいし、どこで折り合いを付けるかだろう。
- (9) ~のためにこういう場が欲しい、広ければ便利という話は通らない。公民館と一緒にしても何の問題もないし、相談とレファレンスを一緒にしよう、それはこの部屋でやる、というのも悪くない。
- (10) 顧客情報が計画作成時の大半のデータとなる。1年間に一人が何回使っているか、本の貸出数は、といったような基礎データを取ってみる。顧客を分析し、だからこういう中央図書館が必要だとなるはずだ。また県立西部図書館との役割分担や収蔵方針なども検討していかなければならない。

「市立中央図書館建設基本構想」会議概要

1. 開催日 平成12年3月14日(火)

2. 参加者 鈴木教育総務部長

(図書館) 増田館長・長谷川専門監・斉藤主幹

(社会教育課) 内田課長・佐藤補佐

(公民館) 関口補佐

(企画調整室) 市毛専門監・川上・永田

3. 要 点

- (1) 計画なり構想として、策定までに市民の意見を聴くとかさらに調査を必要とするところもあるので、ラフでもよいから形のあるものを作りたい。
- (2) 中央図書館と分館のあり方を考える上で、今までに面整備で高水準のサービスを行ってきたことをどう再編成するか、これまでの体制についての評価とその上に立った構想が必要。
- (3) 図書館法の理念を全て実現すべきなのか。様々な図書館の役割分担の中で、松戸の図書館が担う役割、それに見合う資料の収集についても合意形成が必要。東京では都立、区立、他の図書館と役割分担している。
- (4) 松戸でも本市になれば県立や国会図書館などから借りているが、図書館職員というのは、できるだけ自分の所で資料を揃えて貸出したいと思っている。
- (5) 地域特性への認識は必要。西部図書館や地方の図書館に依頼するということが、役割分担に繋がる。
- (6) いつでも、どこでも、という考え方については、図書館の理念があり、それをペーパーベース情報で提供するのかデジタル情報か、でクリアできると考える。切りわければよい。
- (7) 資料収集方針は、予算を含めて市民との合意形成が必要。市民意識調査では、新たな負担を望まない市民も多く、負担という点では利用者以外の意見も重要だ。
- (8) 利用者の日常の中での要望、一般市民からの要望や予約は、隠れた資料選定員とも言える。
- (9) 中央館はコントロール機能であって、規模ではないという考え方もある。
- (10) 社会教育では、要求課題と必要課題とよく言われる。住民が欲しい部分をどのくらい補充していくか、ということと、地域課題のようなものを行政が発信していく、というように二通りある。後段はシビアな問題。
- (11) 社会情勢に応じた、というのも重要。社会的課題を積極的に提供するか、行政の図書館でないといけない部分を行う。要求課題に対して、どのくらい応えられるかというあたりの論議は難しいが、市民の支持があれば、ということもある。
- (12) 現実的には不可能だが、可能になっている部分をどうカバーするかも課題になる。書店も図書資源として考えられる。
- (13) 市民が学習という一つの手段を使って自立していく、という点は明らかにしたい。生涯学習の理念のところ、学習面で示したいし、生涯学習社会のあるべき姿に繋がっていく。